

## 新約聖書 マタイによる福音書 2章 1節—12節（新共同訳）

<sup>1</sup> イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった。そのとき、占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、<sup>2</sup> 言った。「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです。」<sup>3</sup> これを聞いて、ヘロデ王は不安を抱いた。エルサレムの人々も皆、同様であった。<sup>4</sup> 王は民の祭司長たちや律法学者たちを皆集めて、メシアはどこに生まれることになっているのかと問いただした。<sup>5</sup> 彼らは言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者がこう書いています。<sup>6</sup> 『ユダの地、ベツレヘムよ、／お前はユダの指導者たちの中で／決していちばん小さいものではない。お前から指導者が現れ、／わたしの民イスラエルの牧者となるからである。』」<sup>7</sup> そこで、ヘロデは占星術の学者たちをひそかに呼び寄せ、星の現れた時期を確かめた。<sup>8</sup> そして、「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。わたしも行って拝もう」と言ってベツレヘムへ送り出した。<sup>9</sup> 彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。<sup>10</sup> 学者たちはその星を見て喜びにあふれた。<sup>11</sup> 家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。<sup>12</sup> ところが、「ヘロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあったので、別の道を通って自分たちの国へ帰って行った。

※第1朗読と第2朗読は末尾に掲載

## 説教「救い主の現れ」

本日の福音書には、遠い東からの占星術の学者たちが、救い主として誕生した幼子イエスを拝むために訪ねてきたという出来事が記されています。

「拝む」(2, 8, 11 節)とはギリシア語で「プロスキュネオー」という語です。これには本来「～に対してキスをする」という意味があります。地にひれ伏して、相手の足や服の裾にキスをする、という意味です。人間に対しても用いられることがあります(使徒言行録 10:25)が、基本的には神または超越的存在に対する礼拝の意味で用いられる言葉です。占星術の学者たちは、この「拝む」という言葉を、生まれたばかりのメシアに対してのみ使い、当時ユダヤを支配していたヘロデ王には使っていません。

異邦人である占星術の学者たちが言った「ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか」という言葉に、ヘロデ王は不安を抱きました(マタイ 2:2)。

王であるヘロデが不安を感じたのは、自分以外に王として誰かが出現したというのですから、自然なことでしょう。しかし、「エルサレムの人々も皆、同様であった」とは、なぜでしょうか（マタイ 2:3）。人々はまことの王、メシアを待ち望んでいたはずで、ヘロデが不安を感じたにせよ、人々は喜ぶべきではなかったのでしょうか。

しかし、エルサレムの人々は、ヘロデの、権力の座に固執するあまりの残忍さを、よく知っていました。したがって人々は、自分の地位を脅かされたと感じたヘロデが、今度はどのような残忍な行動に出るかと不安になったのです。

ヘロデは懸命になってメシア誕生の場所を探させて、祭司長や律法学者たちに預言を調べさせ、ミカ書 5:1 に基づいてそれがベツレヘムであることをつきとめます。

そこでヘロデは「ひそかに」占星術の学者たちを呼び寄せ、星の現れた時期を確かめ、こう言いました。

「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。わたしも行って拝もう」（マタイ 2:8）。

ヘロデが「ひそかに」学者たちを呼んだというのは、メシア誕生の報せを全国的なこととして公にしたくなかったからです（マタイ 2:7）。そこで、わたしも拝みに行くからと学者たちを騙して、ベツレヘムを探索させるわけです。

「彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった」とあります（マタイ 2:9）。

「東方で見た星が先立って進み」という一句が、先立つ恵みを示しており、それが神の導きの星であったことを表しています（マタイ 2:9）。この導きの星、それは聖霊の導きと理解しても良いでしょう。その聖霊の導きを受けて、学者たちはただひたすらそれに従い、求めて進みました。彼らはただただその導きを信じて荒れ野の困難な旅を続けてきたのです。

「学者たちはその星を見て喜びにあふれた」とあります（マタイ 2:10）。

「喜びにあふれた」異邦人の学者たちと、「不安を抱いた」ユダヤの王ヘロデとが対照的です。

ヘロデは自分の存在を否定される出来事としてイエスの誕生を受け止め、イエ

スの存在を否定することによって、自分の存在を主張しようと思いました。一方で、異邦人の学者は、心を空っぽにして、ただ喜びにあふれたのです。

キリスト生誕の出来事は、それを心を開いて受け止める者と、自らをどこまでも主張しようとする者とをはっきりと分けました。

学者たちが星の導きだけを頼りとして遠い東の国を旅立った時から、彼らの姿勢は拝む者、礼拝する者の姿勢だったと言えるでしょう。学者たちが、ついに幼子イエスの前に立ったとき、それが具現化されました。彼らははるばる持ってきた宝の箱を開けて幼子イエスに献げ物をします。

彼らが献上した「黄金」は王に献げられる物、「乳香」は神に献げられる物、「没薬」は清らかさを象徴するものです。また、「没薬」は宗教的な表敬、あるいは結婚式に用いられることもあります。埋葬される死者に塗るものでもあり、イエスの十字架を象徴するとも考えられます。

学者たちは、敬意を表す贈り物としてこれを幼子イエスに献げました。彼らはできる限りの敬意と賛美と喜びをこの幼子に示したのです。

2025年という新しい年になりました。

学者たちは「星の導き」によって、キリストの生誕を知りました。

人は、何かを思い患っている時は、下を向きがちです。

そんな時こそ、はるか彼方の空を見上げましょう。

学者たちが、先立って進んでいった星に導かれたように、私たちも神の導きに従って、2025年というこの新しい年を、共に歩んで行きましょう。

お祈りをいたします。

天の神様。あなたの働きは、距離や時間を超えて多くの人々に伝わり、その生を導いていきます。イエスがお生まれになったことを通して実現されるあなたの救いを喜びつつ、この一年を歩んでいけますように。御子 主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

\*\*\*\*\* 説教ここまで \*\*\*\*\*

以下、本日に関連する聖書箇所（第1朗読と第2朗読）です。

旧約聖書 イザヤ書 60 章 1 節—6 節（新共同訳）

<sup>1</sup> 起きよ、光を放て。あなたを照らす光は昇り／主の栄光はあなたの上に輝く。  
<sup>2</sup> 見よ、闇は地を覆い／暗黒が国々を包んでいる。しかし、あなたの上には主  
が輝き出で／主の栄光があなたの上に現れる。<sup>3</sup> 国々はあなたを照らす光に向  
かい／王たちは射し出でるその輝きに向かって歩む。<sup>4</sup> 目を上げて、見渡すが  
よい。みな集い、あなたのもとに来る。息子たちは遠くから／娘たちは抱かれ  
て、進んで来る。<sup>5</sup> そのとき、あなたは恐れつつも喜びに輝き／おののきつつ  
も心は晴れやかになる。海からの宝があなたに送られ／国々の富はあなたのも  
とに集まる。<sup>6</sup> らくだの大群／ミディアンとエファの若いらくだが／あなた  
のもとに押し寄せる。シェバの人々は皆、黄金と乳香を携えて来る。こうして、  
主の栄誉が宣べ伝えられる。

新約聖書 エフェソの信徒への手紙 3 章 1 節—12 節（新共同訳）

<sup>1</sup> こういうわけで、あなたがた異邦人のためにキリスト・イエスの囚人とな  
っているわたしパウロは……。<sup>2</sup> あなたがたのために神がわたしに恵みをお与  
えになった次第について、あなたがたは聞いたにちがいません。<sup>3</sup> 初めに  
手短かに書いたように、秘められた計画が啓示によってわたしに知らされまし  
た。<sup>4</sup> あなたがたは、それを読めば、キリストによって実現されるこの計画を、  
わたしがどのように理解しているかが分かると思います。<sup>5</sup> この計画は、キリ  
スト以前の時代には人の子らに知らされていませんでしたが、今や“霊”によっ  
て、キリストの聖なる使徒たちや預言者たちに啓示されました。<sup>6</sup> すなわち、  
異邦人が福音によってキリスト・イエスにおいて、約束されたものをわたした  
ちと一緒に受け継ぐ者、同じ体に属する者、同じ約束にあずかる者となる  
ということです。<sup>7</sup> 神は、その力を働かせてわたしに恵みを賜り、この福音に  
仕える者としてくださいました。<sup>8</sup> この恵みは、聖なる者たちすべての中で最  
もつまらない者であるわたしに与えられました。わたしは、この恵みにより、  
キリストの計り知れない富について、異邦人に福音を告げ知らせており、<sup>9</sup> す  
べてのものをお造りになった神の内に世の初めから隠されていた秘められた  
計画が、どのように実現されるのかを、すべての人々に説き明かしています。  
<sup>10</sup> こうして、いろいろの働きをする神の知恵は、今や教会によって、天上の支  
配や権威に知らされるようになったのですが、<sup>11</sup> これは、神がわたしたちの主  
キリスト・イエスによって実現された永遠の計画に沿うものです。<sup>12</sup> わたした  
ちは主キリストに結ばれており、キリストに対する信仰により、確信をもっ  
て、大胆に神に近づくことができます。

教会讃美歌 16 番「時は満てり」1,2,3 節、27 番「天なる神には」1,2,4 節、  
28 番「ああベツレヘムよ」1,2,4 節、254 番「つかれしものに」1,2,3 節、  
288 番「光のわが主よ」1,2,6 節